

目的 伝統的住宅地域における家庭内清掃の実態を通して、家庭内清掃の変容の様子や要因及び住宅や住宅地に基づいた合理的な清掃方法を知り、その中から、現在の住宅や住生活に基づいた清掃方法を考えようとするものである。

方法 前報調査から、富田林市寺内町の家庭清掃がよく行なわれている家庭を対象として、①住宅の平面図採集、②住戸内観察、③主婦に対して面接聞き取り調査を行った。調査内容は日常清掃の方法・場所・人・所要時間・時間帯・清掃用具等や特別清掃方法及び清掃についての考え方などについてである。調査時期は1986年12月、調査対象家庭は7軒である。

結果 ①毎日行われているのは台所、茶の間など家族がよく使う部屋を中心に掃除機かけや水拭き及び玄関前通りの掃き掃除である。便所、浴室の丁寧掃除や障子の核叩き等は週に1、2回定期的に行っている。②掃除の時間帯は午前7時頃から10時頃までの1時間位あてられている。③床上用の清掃用具は掃除機、箒、ハタキ、教杖の雑巾等で、その置き場所は各家庭により差がみられる。特に掃除機の置き場は一定していない。④掃除を主にやっているのは主婦である。(戦前までは使用人が中心)⑤特別清掃としては大掃除があるが、現在では夏季より、正月前が中心で、外壁叩き、水拭き、ガラス磨きなどが行われている。昭和40年代に入って、夏季の大掃除が行われなくなり、簡略化している。⑥家庭清掃は家族のみで行っていくものとする考えが多い傾向である。